



公報 第2号

1981.11
日本家庭科教育学会
中国地区会

晩秋の候、会員のみな様には、教育に研究にお忙しい日々と存じます。会報第2号をお届けします。8月の研究発表会・総会を中心にとまどてみました。

日時 8月22日(土) 午後1時 ~ 5時
第1回研究発表会・総会・懇親会 報告

場所 広島大学学校教育学部

参加者 34名

1 研究発表

進行 中間美砂子, 座長 児玉松代, 太田昌子, 藤本美代子
開会挨拶 桑原敏子

9件の研究発表があった。当日、発表者が用意された講演要旨をつぎに掲載しました。

発表番号 1

アイロン台の研究(第1報) 一熱効率の点からみた各種アイロン台の性能比較一

江幹 楠 児玉松代
大短 女子 安田 女子

性能熱の点から見た各種アイロン台の性能比較一

この研究は、アイロン台の性能を比較するために、アイロン台の構造、材質、熱効率、温度調節機能などを調査した。調査の結果、アイロン台の性能は、熱効率、温度調節機能、材質、構造などに大きく影響を受けることがわかった。また、アイロン台の熱効率は、アイロン台の構造、材質、熱効率などに大きく影響を受けることがわかった。また、アイロン台の温度調節機能は、アイロン台の構造、材質、熱効率などに大きく影響を受けることがわかった。

目的は、アイロン台の性能を比較するために、アイロン台の構造、材質、熱効率、温度調節機能などを調査することである。調査の結果、アイロン台の性能は、熱効率、温度調節機能、材質、構造などに大きく影響を受けることがわかった。また、アイロン台の熱効率は、アイロン台の構造、材質、熱効率などに大きく影響を受けることがわかった。また、アイロン台の温度調節機能は、アイロン台の構造、材質、熱効率などに大きく影響を受けることがわかった。

調査の結果、アイロン台の性能は、熱効率、温度調節機能、材質、構造などに大きく影響を受けることがわかった。また、アイロン台の熱効率は、アイロン台の構造、材質、熱効率などに大きく影響を受けることがわかった。また、アイロン台の温度調節機能は、アイロン台の構造、材質、熱効率などに大きく影響を受けることがわかった。

結論として、アイロン台の性能は、熱効率、温度調節機能、材質、構造などに大きく影響を受けることがわかった。また、アイロン台の熱効率は、アイロン台の構造、材質、熱効率などに大きく影響を受けることがわかった。また、アイロン台の温度調節機能は、アイロン台の構造、材質、熱効率などに大きく影響を受けることがわかった。

家庭科における健康生活教育に関する研究(Ⅱ)

—健康生活に関する概念及び意識と実態—

広島大学大学院教育学研究科
石谷 圭子

<目的>
今日、健康教育はあらゆる場で行なわれているにもかかわらず、多くは教育として成り立っていない傾向がみられる。そこで、健康生活の概念を明確にし、その実態を把握することにより、家庭科における健康生活教育のあり方を考察し、それにふさわしい教材内容・方法を構築する意図をもって本研究を実施した。

<方法>
第1報と同様に調査を実施した。すなわち、対象は、義務教育段階終了前の男女とし、方法は、質問紙留置法であり、内容は、健康に対する意識・実態に関する項目を規定し、主として生活要求と関連させ分析を行なった。回収率90%、有効回収率92%であった。

- <結果>
1. 健康生活の概念を、自己、近接、遠隔の諸環境に分類した場合、「健康」を身体的側面で理解している者が約56%を占め、環境とのかかわりまでとらえる視野に欠ける傾向がみられた。
 2. 対象者の健康状態は、全体的には男女とも良好であると意識しているが、3環境の各々について具体的に分析すると、「自己」については男子の方が良好であり、近接環境、遠隔環境に対する「自己」は女子の方が良好であるという結果が見い出された。
 3. 生活要求とのかかわりでは、家庭科の教育的姿勢に対する反省と現行の学習内容における健康生活の扱いについて検討すべき問題点が提起された。

アメリカにおける家庭科の成立(Ⅱ)

—その歴史的背景—

広島大学大学院教育学研究科

佐藤 圓

<目的> 本稿、アメリカの家庭科の成立を、20世紀初頭のアメリカの社会状況から考察し、その歴史的背景を明らかにする。1918年の「中等教育の根本原理」における家庭科の成立を、その歴史的背景から考察し、その歴史的背景を明らかにする。1918年の「中等教育の根本原理」における家庭科の成立を、その歴史的背景から考察し、その歴史的背景を明らかにする。

<方法> 以下の文献を主要資料として用いた。
*E.P. Cubberley, Public Education in the U.S. (1962) *R.F. Butler, L.A. Gwynn, A History of Education in American Culture (1972) *H.T. Cole, Home Economics as a Profession (1961) *B.R. Andrews, Education for the Home (1941) など
<結果> 家庭科の成立は、20世紀初頭のアメリカの社会状況から考察し、その歴史的背景を明らかにする。1918年の「中等教育の根本原理」における家庭科の成立を、その歴史的背景から考察し、その歴史的背景を明らかにする。

婦人の生涯教育にみられる学習の傾向
——団体学習による家政教育の内容——

定時制高校生の生活時間に関する研究

広島大学大学院教科教育学研究科 ○山田 綾
広島大学教育学部 関 志比子

岡山県井原市立高校 藤原 純子

〈目的〉 我が国に於ける生涯教育の重要性が認識され、昭和46年に社会教育審議会が「急激な社会構造の変化に際しては、個人が主体的に生活課題を解決する能力を高める必要がある」として、生涯教育の重要性を指摘した。この観点から、本調査は、昭和49年以降の広島県内民間婦人団体学習会における学習活動の現状を明らかにし、その学習内容や学習の目的、学習の機会、学習の場、学習の形態、学習の回数、学習の頻度、学習の継続性、学習の成果、学習の満足度、学習の課題、学習の改善策などを明らかにし、生涯教育の推進に資するものとする。

〈方法〉 広島県内民間婦人団体学習会を対象とし、昭和49年以降の広島県内民間婦人団体学習会を対象とした。調査期間は昭和56年6月22日～27日の一週間とした。方法は一日前の生活時間の記憶をたどって規定の用紙に記入する方法を用いた。

〈結果〉 1) 昭和49～56年における広島県内民間婦人団体学習会の学習活動は、専ら家庭生活問題に関する学習が中心であり、その学習内容は、生活知識の習得、生活技能の向上、生活態度の陶冶、生活意識の醸成などに重点を置いている。2) 広島県内民間婦人団体学習会の学習活動は、専ら家庭生活問題に関する学習が中心であり、その学習内容は、生活知識の習得、生活技能の向上、生活態度の陶冶、生活意識の醸成などに重点を置いている。3) 広島県内民間婦人団体学習会の学習活動は、専ら家庭生活問題に関する学習が中心であり、その学習内容は、生活知識の習得、生活技能の向上、生活態度の陶冶、生活意識の醸成などに重点を置いている。

〈目的〉 定時制高校生は、劣悪な労働条件のもとで数々の切迫した生活課題を抱えているにもかかわらず、多くの場合、生活課題のゆとりをなすことができない状況におかれていた。家庭科のねらいが「生命と生活の維持・発展」のため「総合的な家庭経営能力の育成」にあるとすれば、家庭科は授業の中でこれらの実態をひとつひとつ取り上げることで、生徒ひとりひとりに生活の中の問題点を気づかせ、解決の方向に導かねばならないと考える。そこで、本調査は、まず、生活時間の実態調査を通して生徒の問題意識を持たせることを目標とした。

〈方法〉 対象は岡山県井原市立高校の1年女子16名、3.4年女子15名、計31名、調査期間は昭和56年6月22日～27日の一週間とした。方法は一日前の生活時間の記憶をたどって規定の用紙に記入する方法を用いた。

〈結果〉 実態調査の結果を、各自(i)生理的生活時間、(ii)労働時間、(iii)社会的・文化的な生活時間に分類させた結果、次のことが明らかにされた。①全体的にみると(i)：(ii)：(iii)の割合が不均衡である。②平日は食事の時間が非常に短い。③睡眠時間が不規則である。④学校外での学習はほとんどされていない。⑤疲労によって食欲や睡眠が妨げられていると多くの生徒が感じている。これらの問題点に対する生徒の解決策は極めて妥協的、消極的であった。今後、さらに金銭の経営などを加え、生徒がもっている生活課題を広く社会とのなかかわりの中でとらえ展開してゆく必要がある。

男女共修による技術・家庭科保育領域の指導について (第1報) ——保育学習に関する中学生の意識——

島根大学教育 太田 昌子
松江市立二中 北野 清喜

岡山県の小学校における被服製作指導 (オ5報) ——岡山市内小学校児童の保護者の実態——

岡山大学教育 西村 純子

〈目的〉 新学習指導要領の男女相互乗入れ措置により、技術・家庭科各領域の指導については、これまでと異なる新たな問題点が生じている。人間育成の保育の学びと、男女ともに理解させることは極めて重要であり、他の食物・被服・住居の共修に勝るとも劣らぬ意義を持つものと考へるが、これまでになかった新しい事態だけに、その指導にあたってはかなり慎重さを要するものと思われる。そこで、いま中学生の家庭科および保育学習についての意識を把握することを目的として調査研究を行い、今後の保育指導の参考に資することとした。

〈方法〉 松江市の三つの中学校3年生男女生統計255名(但し一部の調査は男女計158名)を対象として質問紙法による調査を行った。調査時期は昭和55年6月中旬～7月中旬である。調査内容は、1)小学校家庭科についての意識、2)中学校技術・家庭科で学習したい領域、3)中学校技術・家庭科の男女共修に関する意識、4)保育学習に関する意識等である。これらについての全般的な傾向をみると同時に、男女差を比較検討した。

〈結果〉 これらの調査結果をみると、ほとんどの項目にわたって男女間の意識差が認められた。とりわけ技術・家庭科各領域への興味や男女共修に関する考え方、乳幼児に対する接触経験や親愛感、保育学習に対する興味や有用意識などに男女差が顕著であり、女子に比べると男子の保育並みに保育学習についての興味や関心はかなり低いことがわかった。以上の結果は、今後保育の男女共修とするための内容や指導法について充実な考慮が必要であることを示唆している。

〈目的〉 被服製作の学習上、最大の問題は“縫い”の学習である。教師の指導と共に、家庭環境の児童への影響は無視できない。そこで児童と関係深い保護者の実態と、さらに児童の実態との関連を探り、被服製作の指導に役立てる。

〈方法〉 岡山市内公立小学校80校のうち、地域・学校規模等を考慮して、小・中・大規模校2校ずつ無作為に抽出した。調査対象はオ5・6学年児童780名とその保護者で、郵送法によるアンケート調査である。時期は55年5月、回収率は83%で644名、本稿は保護者の回答報告である。

〈結果〉 (1) 保護者の縫いに対する意識は高く、過去2年間に何等かの縫いの経験をもっている者が多い。従って、児童に対する縫いの学習は必要は認めながらも、要亦程度は低く、児童への要求・行動等には男女の差がある。

(2) 児童の縫い学習に対する保護者の影響について、保護者の好みは児童の意識と相関があるが、保護者が縫う、子供に教える、手伝わせる等の行動的関連はほとんどみられない。

(3) 児童は、縫いの学習以前既にその経験は多く、意識も高い、要亦能力も高い水準を求めているが、そこには保護者の要亦度との相関はみられない。

以上の結果から、保護者の児童に対する男女差意識は、縫いの指導上考慮の必要があり、児童と保護者間には予想したほどの関連がみられなかったため、縫い学習の教育的役割を考へる上で留意しなければならぬ。

家庭における親子のコミュニケーションに関する研究

広島大・学校教育 桑原 敏子

<目的>

家庭科教育を進めるにあたって、学習者の家庭生活の実態を把握することは重要である。その一つとして親子のふれあい・対話について中学生とその母親との実態と意識と調査し集計し考察を加え 指導の資料とする。

<方法>

- ・調査方法：質問紙による自記式アンケート調査
- ・調査対象：生徒—中学1年～3年各学年男女各100名、計600名、保護者—対象生徒の母親各学年男女各35名、計420名。
- ・調査時期：昭和55年9月。
- ・調査内容：生徒には、朝食・夕食時の両親とのふれあいや会話、困らんの持ち方、両親と話し合いことと時間 etc. 母親には、親子の対話の現状の評価、改善の工夫 etc.

<結果>

- (1). 朝食を両親といっしょにとる生徒は約40%、ひとりでの生徒は20%強、夕食後困らんの時間を毎日もつ生徒は10%強、全くもたない生徒は30%弱、週1～2回もつ生徒が40%など、親子がふれあう機会は少なく、この傾向は高学年ほど強い。
- (2). ゆっくり話し合う機会は両親ともに少なく、父親とは年に2～3回と殆んどゼロに近い生徒もいる。これに対して生徒は父親との対話を望み、話し合いしにい内容は、進路のこと・親の生き方などをあげている。
- (3). 母親の意識は、もっと親子で工夫して話し合う機会をもちたいとしており、その対策として、いっしょに食事する・食後の困らんの時間もつ・親の方から話しかけるなどをあげている。

男女共修による技術・家庭科保育領域の指導について (第2報)
—男女共修による保育学習のこころみ—

島根大学教育 太田 昌子
松江市立二中・北野 清美

<目的> 第1報の意識調査に続いて、次のような研究視点による男女共修の保育授業をこころみ、1) 男女生徒間の学習効果の比較、2) 学習形態別(男女共修及び別学)にみた学習効果の比較、3) 教材として用いた視聴覚教材の学習効果、4) 授業における意識の変容

<方法> 研究対象は、松江市立第二中学校3年生男女158名である。実施期間は昭和55年9月初旬～10月下旬であり、保育学習全15時間中、はじめの3時間を実験授業とした。先にあげた研究視点に基づく学習効果を考察すまたへの評価資料として、1) 事前テスト及び事後テストの成績(知識理解について)、2) 実験授業直後及び授業一週間後の意識調査の結果、3) 教材として用いた16ミリ及び8ミリフィルムの印象とその内容理解についての調査結果、4) 保育学習終了後の自由記述による感想等を聞いた。

<結果> これらの結果をみると、1) 女子の方が男子よりも知識理解面及び、意識面いづれにおいても好成績を示した。2) 学習形態別(共修、別学)の効果と比較すると、知識理解面では差はないが、意識面では男女間に多少差が認められた。3) 視聴覚教材の利用については、十分な効果が認められたが、やはり男女間に興味差があらわれた。4) 学習終了後の意識調査では、男女共にほとんどが保育学習の必要さを認めていた。

しかし、全般的にみて男女間の意識差は依然として大きく、今後共修による保育学習をすすめるためには、その内容や指導法について、尚一層の研究が必要と思われる。

Ⅱ 総 会

司会進行 西村綾子 議長 太田昌子

1. 報告事項

1) 会則のミスプリント訂正

会報第1号につけた会則の第8条(会計)2, 会計年度, 毎年1月1日に始まりに訂正(4月1日は誤り)

2) 日本家庭科教育学会共同研究「児童・生徒の発達と家庭科教育」の研究経過

この研究は54年度から手がけられてきているが, 56年・57年に科学研究費補助金(総会研究A)の交付が決まった。金額は, 56年度390万円, 57年度380万円である。本年度は「家庭生活に関する認識調査」を実施する。共同研究推進委員会で作成した設問で9~10月に予備調査を行いその結果を11月の例会(於文化女子大学)に報告し, 討議を重ね, これをもとに本調査を実施する。

当地区は, 小乃至中規模都市の中学2年生100名(男女)に実施する計画になっている。

なお, 質問内容は, フェースシート・家庭の存在価値・家庭の機能・家族の役割についてである。(詳細は省略)

2. 審議事項

1) 来年度事業計画

来年度事業計画は, 研究発表会の開催及び会報を発行することに決る。

2) 研究発表会・総会の会場

研究発表会場は, 各県に移動するのが地元の先生に多数出席していただけて, 啓蒙になってよいので各県に回す。

さし当って57年度は, 岡山市で8月20日ごろに予定する。

審議の結果, 上記のとおり決定された。

Ⅲ 懇 親 会

司会進行 道円博子

総会に引続いて, 約1時間の懇親会をもった。出席者28名で, 自己紹介のあと, 家庭科教育についての意見交換が活発に進められたが, 世間の風潮はとかく家庭科を軽視する現状にあるが, それを改めさせるためには, 家庭科の教師がしっかり研究を積んで, 中・高校生を指導し, 家庭科の魅力・重要性を認識させねばならない。地道なやり方だが実のあるものが, 保護者や社会を説得するのである。短時間ではあったが, 家庭科を担当する者にとって意義あるひとときであった。

昭和 57 年度 中国地区研究発表会予告

期 日 昭和 57 年 8 月下旬 (21 日を予定)

場 所 岡山大学教育学部

岡山市津島中 3 - 1 - 1

くわしい案内と研究発表申込書は、来年 3 月末にお知らせします。多数のご発表をお待ちしております。また、小・中・高現場の先生の家庭科教育実践の研究報告をとくにお願いします。

世話係代表 (岡大教育) 西 村 綏 子

お 願 い

1. 会費納入について

昭和 56 年度会費未納の方は、至急ご送金ください。

年 会 費 〃 1.000

振替口座番号 広島 16604

2. 住所・勤務先の移動について

お手数ですが、中国地区会事務局にお知らせ下さい。

宛 先

〒 734 広島市南区東雲 3 丁目

広島大学学校教育学部家庭科研究室内

日本家庭科教育学会中国地区会事務局

日本家庭科教育学会中国地区会員名簿

訂正表

(56.10.1現在)

県	該当者	誤	正
鳥取	井上 桃恵	米子南商業高等学校	米子東高等学校
島根	糸賀 都子	松江市上乃木町 2235 石倉 ^{アパート} _{6号}	松江市乃木福富町 277
岡山	岡部 ^瑞 端恵	端 ^瑞 恵	端 ^瑞 穂
	国塩アワ子	アワ子	アツ子
	渡辺 友子	友子	立子
広島	石谷 圭子	本浦町 3 - 19	北大河町 32 - 3
	高橋美与子	糸崎町 1805 藤岡アパート	中之町 3950 岡本アパート
	林 淑子	729-43 双三郡三良坂町大字三良坂 2277-1 08244 - 2230 県立日彰館高等学校	738 佐伯郡五日市町吉見園 1 - 12 - 406 県立佐伯高等学校
	藤原 純子	720-13 芦品郡新市町金丸 1629 - 3 0847 - 53 - 8158 広島大学大学院生	715 井原市井原町 723 の 1 歴城荘 (呼) 08666 - 2 - 0236 井原市立高等学校
	吉田 幸子	福山市木之庄町 51 - 1 白菱 ^{マンション} 502	福山市三吉町 11 - 1
	山崎 甲子	呉市天応町 1631	呉市天応塩谷町 9 - 10
山口	岩根喜久子	喜久子	喜久代
	財間 寿子	寿子	幸子
	藤本美代子	岩国市灘中学校	岩国市立岩国中学校 自宅TEL 0827 43 - 4400
	盛谷スミエ	エ	エ
	山本 弥生	大島郡	大津郡
	陽 八重子	萩市越ヶ浜中学校	阿武町立奈古中学校

新 入 会 員

岡山県				
氏名	〒	自宅住所(連絡先)	TEL	勤務先
佐藤 薫子	703	岡山市東山2-13-80岡山大学教育学部附属小学校	0862-72-0511	岡山大学教育学部附属小学校
広島県				
金岡 智子	721	福山市曙町 3 - 97		
佐藤 園	724	東広島市西条町寺家 97 - 18	0824-28-3512	広島大学大学院生
住吉満喜子	737-01	呉市広町 882 - 4		
鳥谷 靖子	728	三次市十日市町	08246-3-5959	三次市立川地中学校
舟田 静江	733	広島市西区三篠町 3 - 1 - 22	0822-37-4914	広島大学附属高等学校
山田 綾	720	福山市緑町 2 - 17 広大清明寮	0849-25-4089	広島大学大学院生
山口県				
平中 寿江	754	山口市嘉川福岡	083989-2164	山口芸術短期大学
藤本代利子	753	山口市湯田温泉 2 - 8	0839-22-6068	山口芸術短期大学
松本 依子	753	山口市宮野下 2611 - 9		山口女子大学